

「**我等の永住地** (中)

「**ブラジルは** 社説

講解を進めるために、同化と云ふことを付す。吾人は吾人の体験する風俗習慣に馴染むことが其の全部であり、又それが望ましいことであるか何うかである。

勿論、新來移民が移住地の風俗習慣に馴染むことを同化には相違ないが、然し仔細に之を検討するなら、果してそれが同化の全部であるや否やが頗る疑問である云はばならないのだ。一例を舉げて見るならば、それは今から三十、三年前布珪に盛んに人の手を揚げた、日本移民不同化問題であるのである。其の當時、その當本の記者も移民輸送の仕事で米大陸から布珪に渡り、馴染む此の問題に關係を持ったことになつたのであるが、その當時の不同化論者は、日本移民の布珪の何處かを同化せしむるか否かを考究せず、只だ漠然としてゐるが、餘り日本人側も手の施しやがなく、餘りの馬鹿鹿しさに呆れるの外はなかつたのだ。

南大河 州の各政黨の和や工作は既報の如く各派

トレス協会の人達は、日本移民を同化の實例の如くしてあるから、伯

の外、されども、自然ア

は殆んど全くアラカル化し、但だ

明瞭に言ひ難いとしても、自然ア

は日本語教育を併授するから良くな

いの、非難攻撃をするのである

の結果は、頗る優良なる伯國市

民を造り上げつあるのであるか

日本語教育を併授するから良くな

いの、非難攻撃をするのである

の結果は、頗る優良なる伯國市

民を造り上げつあるのであるか

日本語教育を

「さあ、明日は愈々お船さんも別れよ、皆さも別れよ、そして可愛い坊ちゃん、あなたも別れよ」
さよなら晩餐會の、赤い葡萄酒に目のふちなほんのりと褐色に染めて、園子は露らはなイヴニングードレスの丸い白い肩を、一寸氣づつ上げて見せた。
船長のテーブルスピーの後で、めいく椅子を立て、勝手なこなしやべり合ひながら、カチカチを並ぶつけて歩いた後で卓に歸るも、何かばんやりと、浮かない顔で盃をなめてゐる、和田の方へ微笑みかけた。
「さよなら、黄喰だ。」
和田は、彼女のわざと、浮々した様子で、自らの寝しきさま化さずするその様子に腹がつた。
彼女の美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。
「はつきりといさきますがね、異あ若しかじたつ、あんたにくつついで、何處迄も行つちまふかもされませんよ。」
和田は冗談とも、眞面目ともつかない目つきで、丸い小さい目を擡げて、横濱埠頭で、白い両手を握り、迎ねてあようといふんだやないのを、元氣を出して、今晚だけは仲よくタンゴを踊りませうね」
彼女のその美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。

「若い外交官の夢といふものは、

そんなに、貧弱なものでなくつてよ、それとも綺麗な奥さんになつて、春月旅行の下調べくださいふさ返した。

「さあ、踊りにゆきませう、今日は、波も大變静かぢやないこ

う」
がばかりに疲れた顔で、和田も笑つて、若かさうに乾した。

さよなら晩餐會の、赤い葡萄酒に

目のふちなほんのりと褐色に染めて、

园子は露らはなイヴニングード

レスの丸い白い肩を、一寸氣づつ

上げて見せた。

船長のテーブルスピーの後で、

めいく椅子を立て、勝手なこ

なしやべり合ひながら、カチカ

チを並ぶつけて歩いた後で卓

に歸るも、何かばんやりと、浮

かない顔で盃をなめてゐる、和田の

方へ微笑みかけた。

「さよなら、黄喰だ。」

和田は、彼女のわざと、浮々した

様子で、自らの寝しきさま化さ

ずするその様子に腹がつた。

彼女のその美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。

「はつきりといさきますがね、

異あ若しかじたつ、あんたにくつ

ついで、何處迄も行つちまふかも

されませんよ。」
和田は冗談とも、眞面目ともつかない目つきで、丸い小さい目を擡げて、横濱埠頭で、白い両手を握り、迎ねてあようといふんだやないのを、元氣を出して、今晚だけは仲よくタンゴを踊りませうね」
彼女のその美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。

「若い外交官の夢といふものは、

そんなに、貧弱なものでなくつてよ、それとも綺麗な奥さんになつて、春月旅行の下調べくださいふさ返した。

「さあ、踊りにゆきませう、今日は、波も大變静かぢやないこ

う」
がばかりに疲れた顔で、和田も笑つて、若かさうに乾した。

さよなら晩餐會の、赤い葡萄酒に

目のふちなほんのりと褐色に染めて、

园子は露らはなイヴニングード

レスの丸い白い肩を、一寸氣づつ

上げて見せた。

船長のテーブルスピーの後で、

めいく椅子を立て、勝手なこ

なしやべり合ひながら、カチカ

チを並ぶつけて歩いた後で卓

に歸るも、何かばんやりと、浮

かない顔で盃をなめてゐる、和田の

方へ微笑みかけた。

「さよなら、黄喰だ。」

和田は、彼女のわざと、浮々した

様子で、自らの寝しきさま化さ

ずするその様子に腹がつた。

彼女のその美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。

「はつきりといさきますがね、

異あ若しかじたつ、あんたにくつ

ついで、何處迄も行つちまふかも

されませんよ。」
和田は冗談とも、眞面目ともつかない目つきで、丸い小さい目を擡げて、横濱埠頭で、白い両手を握り、迎ねてあようといふんだやないのを、元氣を出して、今晚だけは仲よくタンゴを踊りませうね」
彼女のその美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。

「若い外交官の夢といふものは、

そんなに、貧弱なものでなくつてよ、それとも綺麗な奥さんになつて、春月旅行の下調べくださいふさ返した。

「さあ、踊りにゆきませう、今日は、波も大變静かぢやないこ

う」
がばかりに疲れた顔で、和田も笑つて、若かさうに乾した。

さよなら晩餐會の、赤い葡萄酒に

目のふちなほんのりと褐色に染めて、

园子は露らはなイヴニングード

レスの丸い白い肩を、一寸氣づつ

上げて見せた。

船長のテーブルスピーの後で、

めいく椅子を立て、勝手なこ

なしやべり合ひながら、カチカ

チを並ぶつけて歩いた後で卓

に歸るも、何かばんやりと、浮

かない顔で盃をなめてゐる、和田の

方へ微笑みかけた。

「さよなら、黄喰だ。」

和田は、彼女のわざと、浮々した

様子で、自らの寝しきさま化さ

ずするその様子に腹がつた。

彼女のその美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。

「はつきりといさきますがね、

異あ若しかじたつ、あんたにくつ

ついで、何處迄も行つちまふかも

されませんよ。」
和田は冗談とも、眞面目ともつかない目つきで、丸い小さい目を擡げて、横濱埠頭で、白い両手を握り、迎ねてあようといふんだやないのを、元氣を出して、今晚だけは仲よくタンゴを踊りませうね」
彼女のその美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。

「若い外交官の夢といふものは、

そんなに、貧弱なものでなくつてよ、それとも綺麗な奥さんになつて、春月旅行の下調べくださいふさ返した。

「さあ、踊りにゆきませう、今日は、波も大變静かぢやないこ

う」
がばかりに疲れた顔で、和田も笑つて、若かさうに乾した。

さよなら晩餐會の、赤い葡萄酒に

目のふちなほんのりと褐色に染めて、

园子は露らはなイヴニングード

レスの丸い白い肩を、一寸氣づつ

上げて見せた。

船長のテーブルスピーの後で、

めいく椅子を立て、勝手なこ

なしやべり合ひながら、カチカ

チを並ぶつけて歩いた後で卓

に歸るも、何かばんやりと、浮

かない顔で盃をなめてゐる、和田の

方へ微笑みかけた。

「さよなら、黄喰だ。」

和田は、彼女のわざと、浮々した

様子で、自らの寝しきさま化さ

ずするその様子に腹がつた。

彼女のその美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。

「はつきりといさきますがね、

異あ若しかじたつ、あんたにくつ

ついで、何處迄も行つちまふかも

されませんよ。」
和田は冗談とも、眞面目ともつかない目つきで、丸い小さい目を擡げて、横濱埠頭で、白い両手を握り、迎ねてあようといふんだやないのを、元氣を出して、今晚だけは仲よくタンゴを踊りませうね」
彼女のその美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。

「若い外交官の夢といふものは、

そんなに、貧弱なものでなくつてよ、それとも綺麗な奥さんになつて、春月旅行の下調べくださいふさ返した。

「さあ、踊りにゆきませう、今日は、波も大變静かぢやないこ

う」
がばかりに疲れた顔で、和田も笑つて、若かさうに乾した。

さよなら晩餐會の、赤い葡萄酒に

目のふちなほんのりと褐色に染めて、

园子は露らはなイヴニングード

レスの丸い白い肩を、一寸氣づつ

上げて見せた。

船長のテーブルスピーの後で、

めいく椅子を立て、勝手なこ

なしやべり合ひながら、カチカ

チを並ぶつけて歩いた後で卓

に歸るも、何かばんやりと、浮

かない顔で盃をなめてゐる、和田の

方へ微笑みかけた。

「さよなら、黄喰だ。」

和田は、彼女のわざと、浮々した

様子で、自らの寝しきさま化さ

ずするその様子に腹がつた。

彼女のその美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。

「はつきりといさきますがね、

異あ若しかじたつ、あんたにくつ

ついで、何處迄も行つちまふかも

されませんよ。」
和田は冗談とも、眞面目ともつかない目つきで、丸い小さい目を擡げて、横濱埠頭で、白い両手を握り、迎ねてあようといふんだやないのを、元氣を出して、今晚だけは仲よくタンゴを踊りませうね」
彼女のその美しい透きさはった顔に、和田はオーラを突き刺す手似をした。

「若い外交官の夢といふものは、

そんなに、貧弱なものでなくつてよ、それとも綺麗な奥さんになつて、春月旅行の下調べくださいふさ返した。

「さあ、踊りにゆきませう、今日は、波も大變静かぢやないこ

う」
がばかりに疲れた顔で、和田も笑つて、若かさうに乾した。

さよなら晩餐會の、赤い葡萄酒に

目のふちなほんのりと褐色に染めて、

园子は露らはなイヴニングード

レスの丸い白い肩を、一寸氣づつ

上げて見せた。

船長のテーブルスピーの後で、



日本婦人に缺けた
科科学的智識 (上)

雲泥の差がある

歐米婦人と比較し

早く歩かせるには抱っこは禁物 睡させておくのが第一等良い方法



赤ん坊を育てるには母乳に越した

事はありませんが然し余り母乳

だけで育ててゐる事歩き始めが遅くなります。生後四ヶ月にもな

づつ授乳後に林檎汁など與へ日の経つにつれて色々の野菜汁や

果汁を授乳の際にのみ與へる生後半ヶ月以後にもなれば牛乳を多

少とも與へる方がよい。

食事との間隔はどんな場合にも必

ず四時間にきめ夜は七一八時間の

空腹時をつづつとく事、なほ乳

児の運動の發達のために大切な

事事の間隔はどんな場合にも必

ず四時間にきめ夜は七一八時間の

空腹時をつづつとく事、なほ乳

児の運動の發達のために大切な

非衛生的たらしむるのではあります

科学的智識 (上)

科学的智識 (下)

科学的智識 (下)

科学的智識 (下)

父兄會巡回文庫の讀者 何を好んで讀む…

聖市では批判的な書類
地方では教育に關するもの

昨年九月創立し昨年二月より實際活動を開始したサンバクロ父兄會巡回文庫部は創立當初その運用方につき相當各種の批難があり、實用成績は頗る注目され、各所在地の實情にそくした選用方を種々考究實施するに及んで漸次成績を挙げ現在三十一箇所の文庫を設け、内地よりは既に四回の購入の退着あつて、一般利用を相俟ち内容を充實して來てゐる、今この卅一ヶ所の文庫の所在地を内訳して見る。

甲種文庫はサンバクロ市に一ヶ所で乙種文庫はサンントス市に三ヶ所、丙種文庫はサンバクロ市に他に七ヶ所でそれにジョケリ。

その他の廿ヶ所の寄託部會である。

同圖書部現在の藏書の總冊數は一万一千三百七冊で、この醜態状況は甲種文庫に二千三百五十五冊、丙種文庫に三千六百七冊、寄託部會に一千一千三百七冊で、この醜態状況は貴任者明瞭確實な團體には長期無條件の貸附などなど種々特殊の方便を講じて利用を促進してゐるが一向に振るひはない。

常南米を主とする其他各地海外に出し、これが實現に續ける奔走を移植民事を營みつある各會社組合並に移植民事を掌管する各組合並に移植民事を掌管する各官廳等に於て、日常實務に當つての第一會合が開催された、當日はこれが相互の親交を計るに役立つ様な機關の必要なことは極めて拓務者より十四名、外務省より五名、前田義典、大坂商船東京支店より三名、海外移住組合より三名、アマゾニア産業研究所より四名、南米拓殖株式會社より一名、海外興業株式會社より十三名、都合四十三名より規約につき社事より各々、二名の發送人。

移植民關係職員の 親交機關生る

東京で盛大に發會

博物學等	五 (四)
經濟及外交等	六 (九)
數理、化學等	七 (八)
美術工藝等	八 (一)
地理、歷史、傳記等	九 (三)
資料編誌	一〇 (一)

武道、競技等
文場及文學等
衛生及醫學等
婦人及少年小女雜誌等
(一四)

大日本精神

新日本精神

院病本日

建築工事着手に迫り
中央委員會の活躍經營方針まで定めて
同仁會に遣らせる

海本副領事榮轉
パナマ領事に

三月十八日着任

同日

同日</

